

近畿救急医学研究会

第 174 回救急隊員部会

プログラム・抄録



枚方市の花：菊

日時：令和5年12月7日（木）

13時00分～16時00分

場所：枚方市総合文化芸術センター本館

大阪府枚方市新町2丁目1番60号

プ ロ グ ラ ム

開 会 13 時 00 分

挨 拶 枚方寝屋川消防組合 警防部次長兼救急課長 ^{おおはた}大畑 ^{たかお}隆生

第 1 部 教育講演 (13 時 10 分～14 時 10 分)

演 題 「中毒と災害」

講 師 神戸市立医療センター 中央市民病院

救命救急センター長 ^{ありよし}有吉 ^{こういち}孝一 先生

座 長 枚方寝屋川消防組合 ^{にしたに}西谷 ^{こうじ}耕治

休 憩 14 時 10 分～14 時 25 分

第 2 部 一般演題 (14 時 30 分～16 時 00 分)

助言者 神戸市立医療センター 中央市民病院

救命救急センター長 ^{ありよし}有吉 ^{こういち}孝一 先生

座 長 堺市消防局 ^{よしむら}吉村 ^{ようへい}陽平

1 【不整脈治療剤を多量服用した医薬品中毒事案】

東大阪市消防局 ^{ほんじ}品治 ^{てつや}哲也

2 【炭酸リチウム～双極性傷病者への処方薬～】

大東四條畷消防本部 ^{かみよし}神吉 ^{けんた}健太

3 【大阪市内における市販薬 (OTC 薬) による薬物中毒の現状】

大阪市消防局 ^{あらまき}荒巻 ^{じゅん}潤 ^{こばやし}小林 ^{りゅうせい}龍生

4 【漂白剤 (次亜塩素酸ナトリウム) を飲み込んだ事案について】

京都市消防局 ^{まつもと}松本 ^{たかひろ}隆宏

5 【ネット購入可能物での中毒事案について～便利なネット社会の側面～】

枚方寝屋川消防組合 ^{やはた}矢羽田 ^{たかし}嵩

閉 会 16 時 00 分

第1部 教育講演

演 題 【中毒と災害】

講 師 神戸市立医療センター 中央市民病院
救命救急センター長 有吉 孝一 先生

座 長 枚方寝屋川消防組合 西谷 耕治

「中毒と災害」

神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター

有吉孝一

本救急隊員部会と関連して開催する第 127 回近畿救急医学研究会（2024 年 3 月 2 日（土） 神戸国際会議場）では「エビデンスとレジリエンス」と題し、臨床研究をテーマとした三部会合同シンポジウムを開催する。臨床研究では多くの症例を集積することが必須である。一方で「中毒と災害」は重症症例や多数傷病者が発生するが、稀な事案が多く、一例一例の詳細な症例検討と共有が必要である。

日本中毒学会監修 新版急性中毒標準診療ガイド（2023）では臨床中毒・化学災害のコース AHLS（Advanced Hazmat Life Support）と ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）の EP（Experienced provider）コースよりそれぞれ 5 つのトキシドローンを示し、これをテロや集団中毒に活用することの重要性を述べている。トキシドローンは集団化学災害の覚知に役立つものであり、同書では新たに「災害と中毒」1 章を追加し、受け入れ準備と安全対策、多数傷病者発生時のトリアージ、訓練、化学災害・テロ対応に分けて記載した。ここで、危険性物質（HAZMAT）による災害で代表的な物質をトキシドローンの観点から分類し表に示している。

地下鉄サリン事件（1995）以降、我々は特殊な化学災害発生に気を付けてきた。ところが、四半世紀を経て令和のテロリズムは京都アニメーション放火殺人事件（2019）、北新地ビル放火殺人事件（2021）などガソリンをまいて火をつけるという粗暴なものだ。トキシドローンを使用する暇がないのが問題である。

第 127 回近畿救急医学研究会の後、第 46 回日本中毒学会を 2024 年 7 月 24、25 日（水、木） 再び神戸国際会議場で主催する。（テーマ：Ready for Break?）

以下の 8 つのセッションで基調講演、特別講演、教育講演（指定）等引き続きシンポジウム、パネルディスカッション（一部公募）を行い、一般演題はこれらの関連要望演題として募集する。

- 1, 自殺予防と中毒
- 2, 病院前救護、災害と中毒
- 3, ER と中毒
- 4, 自然毒、抗毒素血清と中毒
- 5, 小児と中毒
- 6, 拮抗剤、分析と中毒（毒性学会と協同）
- 7, ICU と中毒
- 8, 法医学と中毒

常に第一線で戦う救急隊員の皆様の英知を賜りたく、多数の演題応募とご参加をお願い致します。

第2部 一般演題

1 【不整脈治療剤を多量服用した医薬品中毒事案】

東大阪市消防局 品地 哲也

【目的】

医薬品中毒の多くは睡眠薬や抗不安薬、解熱鎮痛薬などの中枢神経系用薬を多量服用した症例であるが、小職が出動した事案において、多量の不整脈治療剤を服用し、致死的不整脈を発症した症例を経験したので報告する。

【症例】

指令内容は、「息子が心臓の薬を服用し、倒れていびきをかいている。」との通報内容であった。傷病者は22歳の男性で、接触時から意識レベルJCS300、頻呼吸、徐脈、心電図上ワイドQRS波形を呈し、服用したと思われるPTP包装シートを確認すると家族に処方されている不整脈治療剤46錠分の空シートを確認した。傷病者の容態及び現場状況から直近の三次救急医療機関へ搬送したところ、病院収容約5分後に心肺停止へと移行したが早期の医療介入によって心拍再開し他病院へ転院となった。

【結果・考察】

本症例は、救急救命士として経験する可能性が低い医薬品中毒の症例であったが、傷病者の緊急度評価を的確に行ったことに加え、通信指令室の細かな聴取や、現場で家族から情報を早期に得ることができたことが傷病者の容態に応じた適切な医療機関への搬送に繋がった。

医薬品中毒症例の多くは、傷病者の背景や現場で薬物の具体的な情報を得るのに難渋するなど、活動時間が延伸する要因が多々あると思慮する。活動時間の延伸を防ぐためにも、プレアラライバルコールの活用による早期情報収集や、救急隊の中で「情報収集」「傷病者の観察」の役割分担を明確にして効率的に活動を行う必要があると推察する。今後の救急活動において、本症例のように、緊急度・重症度が高い傷病者のアンダートリージを回避するためにも、傷病者の容態を早期に評価し、適切な医療機関へ搬送を行うスキルが救急救命士に求められると考察する。

2 【炭酸リチウム～双極性傷病者への処方薬～】

大東四條畷消防本部 神吉 健太

【目 的】

誰でも容易に手に入れることが出来る市販薬（鎮痛薬・鎮咳薬・感冒薬・睡眠薬等）の過剰摂取（オーバードーズ）が年々増加傾向であります。鎮痛薬や感冒薬でのODはある程度の知識はあっても、全ての薬を覚えるのは不可能に近いと思います。今回炭酸リチウムという私自身も聞いたことがなかった薬に対して、経験して得た知識を救急隊の皆様と情報共有することを目的とする。

【症 例】

家族からの通報、62歳の主人が動けないとの内容。ふらつきがあるものの介添えありで歩行可能、発汗・嘔気あり、全身の倦怠感を訴えていた。昨日に処方されている炭酸リチウムを約30錠服用したと本人より聴取する。時間は不明。奥さんと一緒に内科・循環器科で通院中の医療機関へ受診し、点滴治療を施し帰宅。帰宅後から嘔吐・下痢症状があり、様子をみていたが、改善がみられなかったために救急要請に至る。

【経 過】

うつ病にて処方されている炭酸リチウムを過剰服薬したことによる、ふらつき・嘔気・嘔吐・下痢・倦怠感の症状でいいのか？服薬してからかなりの時間が経過しているため、薬とは関係ないのか？バイタルサインも安定しており、他に異常所見も見られない状態であった。過剰服薬による症状であると判断し、炭酸リチウムがどういった影響があるのか、知識が不足していたため、過剰服薬の傷病者を比較的に受け入れてくれる二次医療機関に連絡したところ、救命センターへ搬送したほうが良いと助言をいただき、救命センターへの搬送となる。

【考 察】

バイタルサインに異常なく、安定している状態での救命センターへの搬送は躊躇しました。よく耳にする薬は、私自身もある程度把握している部分があるのですが、まだまだ中毒に対する知識が乏しいため、自己研鑽していくと同時に救急隊への教育も増えていけば、より良い活動へ繋がっていくと考察します。

3 【大阪市内における市販薬（OTC 薬）による薬物中毒の現状】

大阪市消防局 荒巻 潤 小林 龍生

【目 的】

全国的に市販薬（OTC 薬）の依存症や過剰摂取（オーバードーズ）が若年層・未成年を中心に広がっている。そこで令和 3・4 年中の大阪市消防局の救急隊が対応した薬物中毒事案の実態について統計結果を用いて紹介するとともに、発生傾向をとらえ救急隊員の適切な現場対応へ繋げていく。

【対象と方法】

令和 3・4 年中の大阪市内における薬物中毒事案を対象とした。令和 3・4 年中の救急事案における初診時傷病名が薬物中毒に該当するものの内、市販薬によるものを抽出し検証した。また、日本医師会資料の製品パッケージによる危険性・致死量を紹介する。

令和 3 年	薬物中毒	850 件	OTC 薬	77 件
令和 4 年	薬物中毒	865 件	OTC 薬	126 件

【結 論】

今回は薬物中毒事案における現状について統計結果に基づき見える化してみたが、薬事法の法改正前の 2014 年までは一般医薬品による急性薬物中毒の割合は低かったが、改正後は増加傾向にあり、ここ数年は特にその傾向が強くなっている。

薬物中毒による救急事案は搬送困難事案に陥る可能性も高く、市販薬（OTC 薬）が原因のものは若年層・未成年者の占める割合が高く更に搬送先決定を難しいものになっている。

今後の取り組みとしては、引き続き薬物中毒事案の傾向に注視しつつ、救急隊員の観察・情報収集・医療機関への情報伝達能力などの向上に繋げるとともに、市販薬（OTC 薬）の薬物中毒に対して症例検討会や集中講義などを活用し知識を深め・広げる事で救急隊員の適切な現場活動について、発展出来るよう努めていきたい。

4 【漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）を飲み込んだ事案について】

京都市消防局 松本 隆宏

【目 的】

毒劇物を飲み込んだ傷病者に対する、洗浄（除染）、呼吸管理、早期搬送、安全管理等の処置及び活動の優先順位について検討し、救急活動能力を向上させる。

【症 例】

令和4年11月下旬の午前5時頃発生。70代の妻が自宅浴室で、自殺目的で漂白剤を飲み、苦しんでいるとの夫からの119番通報であった。

傷病者は浴室の床面に仰臥位でおり、うめき声を上げながら「痛い、苦しい。」と申述。口唇部及び舌が顕著に赤く腫れており、周囲に吐物を認めた。その他に、顔面（主に下顎部）、頸部及び背部の広範囲に発赤を認めた。

【活 動】

- 1 接触時、傷病者の舌が顕著に腫脹していたことから、咽頭部及び喉頭部の浮腫による気道閉塞の可能性を考慮し、ロード&ゴーを宣言した。
- 2 乾式除染、湿式除染及び酸素投与を実施して早期搬送を実施した。
- 3 車内収容後のバイタルサインは JCS 2、呼吸数 42 回／分、脈拍数 104 回／分、SpO₂ 値 99%（傷病者が拒否し、酸素投与継続困難）、血圧 190／120 mmHg、体温 36.2℃、心電図は洞性頻脈であった。

【考 察】

- 1 アルカリ性剤が皮膚に付着及び体内に残留した状態で、十分な洗浄（除染）を行わず、医療機関に搬送したが、皮膚洗浄及び体内残留物の除去等の優先順位についてどのように判断すべきであったか。
- 2 口腔内に顕著な腫脹を認めたが、化学熱傷等による気道閉塞の可能性、予見方法及び呼吸管理についてどのような方法があったか。
- 3 アルカリ性剤を飲み込んだことにより、胃液と反応して有毒ガスが発生する可能性の予見及び二次災害防止策について何が必要であったか。

5 【ネット購入可能物での中毒事案について～便利なネット社会の側面～】

枚方寝屋川消防組合 矢羽田 嵩

【目 的】

インターネットの普及により、日に日に便利な社会となっていく一方で、インターネットで簡単に薬等も購入できるようになっている。そんな中、インターネットで購入できる合成大麻が起因する中毒事案と痛風の治療薬（コルヒチン）が起因する中毒事案を対応したので2事案を考察する。

【対 象】

合成大麻を吸って気分不良を起こした19歳男性の中毒事案と痛風の薬（コルヒチン）を過剰摂取した17歳女性の中毒事案を対象とする。

【経 過】

両者ともに三次医療機関へ搬送したが、合成大麻中毒は接触時には顔色が悪く見当識に異常があったが、病着時には意識清明、顔色良好となり当日に軽快退院となった。コルヒチン中毒は接触時に顔色良好で第一印象の重症感は全くなかったにも関わらず、搬送した翌日に院内で多臓器不全となり死亡した。

【考 察】

両者とも中毒事案で第一印象の重症感がなく自力歩行で救急車内へ収容しているが、後者においては死亡しているという点で、中毒の場合、普段の活動や判断基準とは違う認識を持ち、幅広い知識での判断が必要となる。

また、合成大麻もコルヒチンも普段あまり見聞きしないが、インターネットで購入することができるということは、誰でも購入でき今後いつ同様の事案に遭遇してもおかしくはないので、今回の事案を通して共有することが必要である。

【結 語】

今回は合成大麻とコルヒチンであったが、今後も技術の進歩により新たな合成大麻や、インターネットの情報が更新され新たなOD薬の情報が発信され、見聞きしたことのない中毒事案に遭遇する可能性があるので、救急隊として常日頃から情報を収集し知識を更新・共有して救急隊のネットワークで対抗することが重要である。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary school writing paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.